

クローバー

1月号

2011年が始まりました。今年もよろしくお祈りします。
お正月の昔の遊びといえば、カルタ取り、百人一首がありますね。百人一首に関する本を展示していますので、日本の和歌にぜひ親しんでください。

その百人一首に歌を残している和泉式部の伝説が、この三隅にありますので紹介します。



和泉式部と小式部内侍の伝説

和泉式部は平安時代の歌人だ。昔、式部は身ごもった重い体でありながら、九州肥前に住んでいる父をたずねて西に向かい石見国に入った。浜田の下府で一女を出産し、その時産湯を使ったので、この地を「生湯」と呼んでいる。式部は三隅の石田川の橋のたもとまで来たが、長い旅と出産とによって疲れはて、これからの旅先を心配して里人の慈悲を願い、心を鬼にして愛児を橋のたもとにすてた。六年後の九州の帰りに、愛児をさがし求めて三隅の里を尋ねた。奇跡的にも我が子とめぐり合い三隅の里の人情を懐かしんで一首残し、親子連れで京の都に帰った。今でもこの地を「子落」と呼ぶ。この子が成長して小式部内侍といい、歌人として名高く、小倉百人一首の中に一首が残されている。

憂きときな 思ぞいずる石見湯 いわみかた

みすみの里の 人の恋しき

和泉式部

大江山 いくのの道の遠ければ

まだふみもみず 天の橋立

小式部内侍

(「三隅の歴史」より)

おすすめの本

わたしの仕事別巻

『阪神大震災で学んだこと』

今井美沙子著 理論社

1995年1月17日阪神大震災は起こりました。今から16年前です。震災のことを風化させないためにも、ぜひおすすめします。

著者は、たくさんのインタビューをとおして、今の日本にどういう仕事があるのか、紹介してきました。そして被災後、今まで取材した人々に仕事をとおして震災について語ってもらっています。それぞれの人の仕事に対する誇りと情熱が伝わってきます。どの人も、震災をとおして感じた人間への信頼、人間の可能性を熱く語っています。



和泉式部と子落の由来の石碑があります。(上写真)どこにあるかわかりますか、一度訪ねてみるといいですね。

